

日本女子大学現代女性キャリア研究所主催シンポジウム

女性 意味が働く を問く う

2023年

12/2 (土) 10:30 - 13:00
(10:00 開場)

於 日本女子大学 (目白キャンパス)
新泉山館 大会議室 (1F)
ZOOMウェビナー同時開催

参加費無料

<申し込み方法>

QRコード (Forms) にてお申込みください (11/29まで)
<https://forms.office.com/r/B42R82ytSq>
※ メール (riwac@fc.jwu.ac.jp) の場合、
件名「シンポジウム申し込み」氏名・連絡先を明記



<主催・お問い合わせ先>

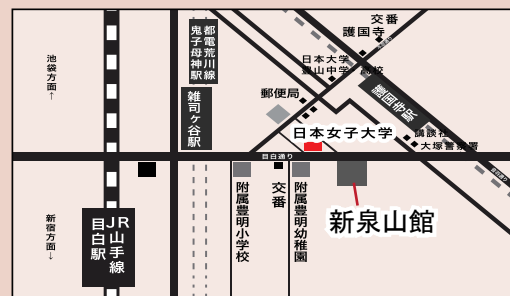
日本女子大学現代女性キャリア研究所
E-mail riwac@fc.jwu.ac.jp

RI*WAC
Research Institute for Women and Careers

学校法人 日本女子大学

<アクセス>

JR山手線 目白駅 (バス5分・徒歩18分)
副都心線 雑司が谷駅 (徒歩8分)
有楽町線 護国寺駅 (徒歩10分)



日本女子大学現代女性キャリア研究所主催シンポジウム

女性が働く意味を問う

プログラム

10:30 ~ 10:35 開会の挨拶 宮崎あかね (日本女子大学副学長)

10:35 ~ 10:40 趣旨説明 永井暁子 (日本女子大学現代女性キャリア研究所 所長)

第一部 講演

10:40 ~ 11:40 「女性が働く意味を問うー共働き文化の過去・現在・未来？」
木本喜美子 (一橋大学名誉教授)

11:40 ~ 11:50 〈休憩〉

第二部 パネルディスカッション

11:50 ~ 12:35 「なぜ女性の就労は〈選択〉の問題とされてきたのか」
杉浦浩美 (埼玉学園大学教授)

「家計と夫婦関係から見た女性が働く意味」
永井暁子 (日本女子大学教授)

「働くことの意味と保護」
上村泰裕 (名古屋大学准教授)

12:35 ~ 12:55 全体討論

12:55 ~ 13:00 閉会の挨拶

登壇者プロフィール



木本喜美子

一橋大学名誉教授。2005年より一橋大学におけるジェンダー教育プログラム策定プロジェクトを立ち上げ、ジェンダー社会科学センターの初代共同代表。主著に『家族・ジェンダー・企業社会』（ミネルヴァ書房、1995年）、『女性労働とマネジメント』（勁草書房、2003年）、共編著に『社会政策のなかのジェンダー』（明石書店、2010年）、『家族・地域のなかの女性と労働』（明石書店、2018年）など。



杉浦浩美

埼玉学園大学人間学部教授。博士（社会学）。専門は労働とジェンダー、マタニティ・ハラスメント。著書に『働く女性とマタニティ・ハラスメント』（大月書店、2009年）、『なぜ女性は仕事を辞めるのか』（共著、青弓社、2015年）、論文に「育児休業復帰面談における権力作用」（『応用社会学研究』63号、2021年）など。



上村泰裕

名古屋大学環境学研究所（社会学講座）准教授。福祉社会学・比較社会政策論専攻。デジタル経済の到来を背景にインフォーマル雇用の研究を進めている。著書に『福祉のアジア——国際比較から政策構想へ』（名古屋大学出版会、2015年。第28回アジア太平洋賞特別賞）。訳書にベラン&マホン『社会政策の考え方——現代世界の見取図』（有斐閣、2023年）。



永井暁子

公益財団法人家計経済研究所次席研究員、東京大学社会科学研究所助教授を経て、日本女子大学人間社会学部教授、現代女性キャリア研究所所長。佐藤博樹・永井暁子・三輪哲編『結婚の壁』（勁草書房 2010年）、「家事と仕事をめぐる夫婦の関係」『日本労働研究雑誌』No.719、(2020年)など。